



シェイクスピアⅡ

三神 勳他 訳

世界古典文学全集

42

筑 摩 書 房

シェイクスピア II

世界古典文学全集 第42巻

昭和 39 年 12 月 20 日第 1 刷発行
昭和 44 年 10 月 15 日第 4 刷発行

訳者代表 三 神 勲

発行者 竹之内 静雄

発行所 株式会社 筑摩書房

東京都千代田区神田小川町2の8
電話 東京 (291) 7651 (代表)
振替 東京 4 1 2 3 番
郵便 号 1 0 1 - 9 1

CS 20342

目次

間違いの喜劇

小田島雄志訳 5

じゃじゃ馬ならし

三神 勲訳 39

ヴェロナの二紳士

北川 悌二訳 101

恋の骨折損

和田 勇一訳 147

夏の夜の夢

平井 正穂訳 207

ヴェニスの人

菅 泰男訳 251

十二夜

小津 次郎訳 307

ウィンザーの陽気な女房たち

三川 神正 勲訳 355

解説

菅 泰男 413

シ
エ
イ
ク
ス
ピ
ア
Ⅱ

間違った喜劇

登場人物

ソライナス エフェサスの公爵。
 イージオン シラキユースの商人。
 エフェサスのアンティフォラス ふたごの兄弟で、イージオンと
 シラキユースのアンティフォラス イーミリアの息子。
 エフェサスのドロミオ ふたごの兄弟で、アンティフォラス兄
 シラキユースのドロミオ 弟の下男。
 バルターザー 商人。
 アンジェロ 金細工師。
 ドクター・ピンチ 教師。
 商人A
 商人B
 イーミリア エフェサスの尼僧院主で、イージオンの妻。
 エドリエーナ エフェサスのアンティフォラスの妻。
 ルシアーナ その妹。
 リユース（またはネル） エドリエーナの女中。
 娼婦
 牢番、警吏、首斬り役人、従者など。
 場面
 エフェサス。

第一幕

第一場

エフェサスの公爵ソライナス、シラキユースの商人イージオン、牢番、従者が登場。

イージオン どうか公爵さま、死刑宣告のご処置を。そしてこの世の悲しみ苦しみをまぬかれますご処分を。

公爵 シラキユースの商人、もう言うな。そなたにだけあわれみをかけ、法をまげることはできぬ。だいたいそなたの国の公爵がわが国の善良な商人たちに、悪意にみちた残酷なふるまいをしたために、近頃両国に不和あつれきが生じた。彼らの身代金が不足したために、苛酷な法令に証印を押すに彼らの血をもつてしたのだ。われらとて眼差にあわれみの色を消し、きびしさを加えざるをえないではないか。平和を乱すそなたの国とわれらとの間に生死をかけた抗争がはじまって以来、ものものしい会議を重ねた結果、シラキユース、エフェサス両国によつて決議文が宣せられ、憎しみあう両国間の通商の道はとだえたのだ。いや、それだけではない。万一エフェサス人がシラキユースの市場に姿を見れば、また万一シラキユース人がエフェサスの港にあらわれれば、その身は死刑、その財産は公爵に没収、ただし科料として一千マルクの身代金を払う場合はそのかぎりにあらず、と決められた。そなたの財産はどう見積らうと一千マルクにはおおよばぬ。それゆえ法によつて死刑に処せられるのだ。

イージオン だがわたくしにも慰めはございます。宣告がすめばわたく

しの悲しみは夕陽とともに消え去りましょうから。

公爵 シラキユース人、かんとんにわけを話してみぬか。なぜそなたは生れ故郷をあとにしたのか、何を目的としてこのエフエサスに來たのか。

イージオン ロにつくせぬわたくしの悲しみを口にするほどつらい仕事はありません。けれど、わたくしが刑場に死ぬのも自然の情に動かされてのこと、けつして卑劣な犯罪のためではないことを世間の人人に知ってもらうため、この悲しみが許すかぎり申しあげましょう。わたくしはシラキユースに生まれ、ある女と結婚しました。このわたくしさえいなければしあわせであつたらうに、不運にみまわれさえしなければわたくしの手でしあわせにしてやれたらうに——はじめのうちは楽しくくらし、エビダムナムへのたびたびの航海でさいわい財産もふえました。ところでそのうちに代理人が死んで商品を管理するものがなくなり、やむをえずわたくしは妻のあたたかい抱擁のどこかぬところへまいりました。それが半年もたたぬうちに、女というものが身にうけねばならぬ楽しい罰とでも申しましようか、気も遠くならんばかりになつてあとを追う支度をととのえ、たちまち無事にわたくしのもとに到着しました。そこでほだなく妻は、玉のような男の子二人の嬉しい母となりました。二人の子は不思議なほど瓜二つ、区別するには名前によるほかないほどでした。ちょうどそのとき、同じ宿で、身分いやしい女がやはりそつくりの男のふたごを生みおとしました。その両親は極度に貧しかったので、金をやつてその子供たちをもらいうけ、息子たちのしもべにと育ててやりました。妻は二人の息子を少なからず自慢に思い、毎日のように帰国をせがみました。わたくしはいやいやながら同意しました。悲しいかな、帰国の船に乗りいそいだが不運のもと。エビダムナムから一リーグほどは、風の吹くままなる海原になんら危険の凶兆もありませんでした。だがそれから先は、希望はすっかり消えうせました。暗天に残るかすかな光といえども、ただおののく心に目前の死を保証するばかり、わたくしひとりならば喜

んで死を受けいれようとも、来るべき運命を前にして泣く妻、そのまねをして何を怖れるかもわからず泣き悲しむ子供たちの、たえまない泣き声を耳にしては、彼らいのち、わたくしのいのちをなんとかひきのばさねばという気になりました。それには、あらゆる手段は断たれて、残された道はただ一つ、水夫らが助からんものとボートに移つて、残さずいたいまにも沈みそうな船にあって、船乗りが嵐にそなえておく予備のマストに、妻は兄のほうをもう一組のふたごの兄ともどもゆわえつけ、わたくしは弟たちのほうをひきうけました。こうして子供たちの処置をすませ、妻とわたくしはそれぞれ注意をくばる子供に眼をくらひ、マストのはしに体をしばり、潮のまにまにコリントとおぼしき方角へただよいはじめたのです。やつとのことで太陽が照りそめ、わたくしたちを悩ませた雲を散らし、待ち望んだ光のおかげで浪もしずまりました。そしてはるかかなたから二艘の船が矢のように近づくが見えました。一艘はコリントの、一艘はエビダウラスの船でした。だがその船が来る前に——おお、これ以上話をつづけることはできません。その先はこれまでのことからご推察ください。

公爵 いや、話をつづけなさい。ゆるすわけにはいかないが、あわれみをかけることはできようから。

イージオン そのあわれみをあるとき神がかけてくださったら、いま、わたくしたちには無慈悲であつた神よ、とけしからん呼び方をしないですんだものを。あるとき、二艘の船があと一リーグというところで、わたくしたちは巨大な巖にはげしくのしあげられ、頼みのマストは真中からまづ二つ、不法にもわたくしたちは別れ別れ、ともに喜びと悲しみのまどである赤児を残されたのも運命。あわれ妻は軽く見えようとも軽くはない悲しみをのせ、風の吹くままひとしお早く流され、見ている前でコリントの漁師に救いあげられたように思います。わたくしどももやつともう一艘の船に拾われ、助けられたわたくしの身の上を知るにおよんで、難破した客としてありがたいもてなしをしてくださいました。さらに先の船から妻子をとりかえそうとしてくれましたが、

船足遅くそれはかなわず、やむなく本国にむかったのです。このようにしてわたくしは喜びからひきはなされ、不幸にも生きのびて悲しいさだめを物語るにいたった次第です。

公爵 そなたがなげき悲しむもののためにも、その後いかなる事態がおこったか詳しく話してみてはくれないか。

イージョン 末っ子ながら長男として育ててまいりました息子は、十八になると兄のことを知ったがようになり、同じく兄を奪われその名のみとどめておりますしもべをつれて、兄探しの旅に出たいとせがみました。わたくしとても兄のほうに会いたい心は強く、愛する弟を失う危険をおかしてあえて承諾しました。わたくしははるかなギリシアで五たびまで夏をすごし、アジアとの境をくまなくさまよい、海岸ぞいに帰らんものところエフェサにまいりまして、見つかるあてはないながら、人の住むところならいずこも探さないままにしておくことはできませんでした。これでわたくしの身の上話も終ります。せめてこの旅の苦勞の間に家族の生存をたしかめえたならば、こうして時をえて死に果てますのも心残りはないでしょうものを。

公爵 ふしあわせなイージョン、運命がその悲惨な不幸のかぎりをになわせるべくそなたを選んだのか。まことに、国法にも、王位、誓言、職務にも違背しなければ、そなたの命を助けたものだ。が、王たるものはそれを棄てたくとも棄てるわけにはいかぬ。そなたに死刑を宣したからには、その宣告を取り消せばわしの名誉に傷がつく。だができるだけの情けはかけてやりたい。そこでな、商人、今日一日をかぎつてそなたに猶予を与えよう。親切な助力により身の安全を求めるがいい。エフェサに居住する知りあいを訪ね、もらうなり借りるなりして身代金の不足を埋めあわせ、死をまぬかれるのだ。それがかなわねば死刑の道しかない。牢番、監視を頼むぞ。

牢番 かしこまりました。

イージョン あてもなくすべもなく、イージョンはでかけるのだ。いのちなき最期をひきのばすだけのために。

第二場

シラキュースのアンティフォラス(弟)、商人A、ドロミオ(弟)登場。

商人A そういうわけですから、あなたはエビダムナムのものだとおっしゃるのですよ。持ちものいっさいを没収されてしましますから。今日もシラキュースの商人が当地に来たためにとらえられ、身代金をはらうことができます、この町の法令によって、疲れきった太陽が西に沈むときまでに死刑になるとのこと。さ、おあずかりしたあなたのお金です。

アンティフォラス弟 ドロミオ、これをもっておれたちが泊まるセクタリオン館に行ってくれ。おれが行くまでそこで待っているんだぞ。一時間たらずで昼食時だ。それまでこの町の風俗を見たり、商人の様子を眺めたり、建物を見物したりしたい。それから帰って宿で寝ることにしよう。長旅で体が疲れてコチコチだ。さあ早く行ってしまえ。

ドロミオ弟 たいていのものならほんとうにどこかへ行ってしまうですよ。こんな大金をあずかれば、絶交するには絶好のチャンスだもの。

〔退場〕

アンティフォラス弟 あれでなかなか信用のおけるやつでしてね。わたしが物思いに沈んでいると、愉快なしゃれなど言って気分をひきたててくれます。ところで、どうです、ごいっしょに町を歩いて私の宿で食事でも。

商人A わたしはある商人たちに招待されていまして、これがちよっと商売になりそうな相手なので、失礼いたします。間もなく五時頃にはよろしかったら市場でまたおめにかかりましょう。そのあとは寝る時刻までお相手いたします。今のところはしばらくおいとまを。

〔一同退場〕

アンティフォラス弟 ではそのときまで。わたしはぶらぶらわれを忘れて町の見物でもしております。

商人A ではごゆっくりお楽しみを。

〔退場〕

アンティフォラス弟 ごゆっくりお楽しみをか。そう言ってくれても、おれが楽しむことのできるものは、おれの手に入らないものだ。この広い世界に対して、おれは一滴の水だ。大海原にもう一滴を探しとめ、仲間をみつけれと海にとびこみ、人に知られず、知りたいと願ひ、ついにはその形を失ってしまう一滴の水だ。母と兄をみつけれそうと探しとめ、ついにはあわれにもわれを失ってしまうのだ。

エフェサスのドローミオ（兄） 登場。

あ、来たな、同年月日生れぬが。おい、どうしたのだ、もうもどってきたとは。

ドローミオ兄 もうもどってきたですと。やっとやってきたと言っはしいですな。鳥肉は焼けこげ、豚肉は焼串から落っこち、時計がカンカンと十二なりやあ、おかみさんがカンカンになって私のほつぺたを一つならす。おかみさんが熱くなるのは食事が冷えるため、食事が冷えるのはあなたの帰りがおそいため、帰りがおそいのはあなたのおなかすかないため、おなかすかかないのは朝御飯をたべたため、だが朝めしぬきでお祈りすべしとこころえしているあたしらは、あなたの罪のおかげで罰のご馳走をいただきます。

アンティフォラス弟 くだらんことを言うな。それよりわたした金はどこにやった。

ドローミオ兄 ああ、先週の水曜日の六ペンス、馬具屋に払うおかみさんのしりがいい代のことでしょう。どこにやったって、馬具屋にやってしまいましたよ。

アンティフォラス弟 おれはいま冗談口きいている気分じゃないんだ。ぐずぐず言わずに答えてくれ、金はどこだ。おれたちはこの土地のものじゃないんだ。あれだけの大金を保管せずはどうして他人にあずける

なんてことするんだ。

ドローミオ兄 冗談口は食卓でどうぞ。あたしはおかみさんのところからとんで来たんだが、これはとんだ災難だ。あなたにスッポカされたらポカポカポカッとおかみさんにやられますからね。あなたの腹時計だつて、あたしと同様、グウグウなりやあ、お迎えなしでもダウタラ息子のご帰館の時刻つてわかりそうなものだ。

アンティフォラス弟 おい、ドローミオ、いまは冗談言つてるときじゃない。もつと気分がいいときまでしまつておけ。お前にあずけた金のありかをきいているんだ。

ドローミオ兄 あたしにあずけた金ですつて。あたしのあずかり知らぬところですよ。

アンティフォラス弟 きさま、ばかなまねはいいかげんにしろ。言いつけられた仕事はどうした。

ドローミオ兄 言いつけられた仕事は、あなたを市場からお宅のフィニックス館へ食事につれもどすことですよ。おかみさんと妹さんがお待ちです。

アンティフォラス弟 やい、おれの金をどんな安全な場所にあずけてきたか返事しろ。さもないと間違ひなく、いい気になってふざけていやるきさまの頭を、心ならずもぶち割ることになるぞ。きさまにわたした一千マルクのきんすはどこにある。

ドローミオ兄 きんすのあとなら、あなたにいただいたのが頭に少々、おかみさんにいただいたのが肩に少々、合わせて一千つてほどじゃないですがね。なんならお返ししましょうか。きつとふところが痛みますぞ。

アンティフォラス弟 おかみさんにいただいたつて、どこのおかみさんだ。

ドローミオ兄 あなたさまの奥方さま、フィニックス館のおかみさんですよ。あなたが食事にお帰りになるまで食事をぬきにしてお祈りなさつてますぞ、あなたが食事にいそいでお帰りになるようにつて。

アンティフォラス弟 やめろと言ったのに、きさま、それほどおれをばかにしたいのか。これでもくらえ、畜生め。

ドロミオ兄 何をなさるんです。まあどうか手をあげないでくださいよ。どうしてもかかってくるならかかつとをあげて一目散だ。

〔退場〕

アンティフォラス弟 あの野郎、きつとはかられてすっかり金をまきあげられたにちがいない。この町は詐欺かたりがいっぱいだという。眼をあさむくすばしつこい詐欺師、心をまどわす邪法の祈禱師、体をかたわにする魂殺しの魔女、姿を変えたベテン師、おしやべりのいかさま師、その他もろもろの悪徳のやからが住みついていてという。とすれば、ここは一刻も早く立ち去るほうがいい。センター館に行つてあいつを探してみよう。どうやら金は無事ではなさそうだ。〔退場〕

第二幕

第一場

エフェサスのアンティフォラス（兄）の妻エドリエーナ、その妹ルシアーナ登場。

エドリエーナ 夫も下男も帰つてこない。いそいで主人を探すように出してやったのに。ねえ、ルシアーナ、もう二時でしょ。

ルシアーナ きつとどなたかご商売のかたに招かれて、どこかへお食事に行つたのよ。お姉さま、わたしたちもいただきましょうよ、いらいらしないで。男の人は自由に対しては主人でも、時に対しては召使、時次第で行つたり来たりするものよ。だからお姉さま、ご辛抱なさい。

エドリエーナ でも、なぜ男の自由は女の自由より大きくなければならぬの。

ルシアーナ だって、男の仕事は家の外にあるんですもの。

エドリエーナ でも、あの人がするように私がすると、あの人は悪く思うのよ。

ルシアーナ だって、あのかたはお姉さまの意志の手綱ですもの。

エドリエーナ でも、そんな手綱にひきまわされるのはとんまなろばだけよ。

ルシアーナ だって、自由がすぎれば不幸という鞭があてられるんですもの。天がみそなわすものは、地上のものも海のものも空中のものも、みなそれぞれの分をまもっているわ。けものも魚も鳥も、みな男につ

かえ、男が支配しているわ。人間はもつと神に近く、万物の霊長であり、広い世界や荒れる海原の支配者であり、魚や鳥よりはるかにすぐれた知性と魂を与えられているとはいっても、やはり男が女の主人であり、君主であるのよ。だからお姉さまも、男の人の意志にそうようになさるなければ。

エドリエーナ でも、あなたが結婚しないのはそんな卑屈な気持があるからじゃなくって。

ルシアーナ だって、わたしは夫婦生活がわずらわしいんですもの。

エドリエーナ でも、あなただって結婚すれば、はりあいたくなることよ。

ルシアーナ だって、わたしは恋を知る前に従順になるけいこをしておくつもりですもの。

エドリエーナ でも、もしあなたの夫がよそでの楽しみをはじめたら。ルシアーナ だって、また帰ってくるでしょう。そのときまでわたしなら辛抱するわ。

エドリエーナ でも、よくまあ平気で辛抱できるわね。それだからいつまでもじつとひとりで落ちついていられるのね。ほかに動く理由がなければじつとおとなしくしていられるでしょうからね。苦しい目にあってみじめに泣く人があれば、おとなしくなさいとなだめるものだけども、もし自分が同じようなひどい目にあえば、もつとひとめをはばかりずなげくもの。あなただって悲しみを与える無情な夫をもたないから、無用な辛抱をおしつけて慰めを与えようとするのよ。あなただってわたしのように妻の座をうばわれる日がくれば、そんな大車輪の辛抱の芯の棒が折れることよ。

ルシアーナ いいわ、いずれ結婚してためしみるわ。ほら、下男が帰ってきたわ。ご主人ももうすぐでしょう。

エフェサスのドロミオ（兄）登場。

エドリエーナ のろまなんだなさまはもうすぐなの。

ドロミオ兄 すぐなのはだんなさまのお手のほうだけで。この二つの耳たぶが証人です。

エドリエーナ 会ってお話したのかい。それでお返事は。

ドロミオ兄 お返事はこの耳たぶへ、こたえましたねえ。つい手を出すんだからついでいけないや。

エドリエーナ ついていけないというと、はつきりおっしゃらなかったのね。

ドロミオ兄 いいえ、はつきりもはつきり、眼から火花が出るほどです。でも日がな一日考えたってなぜそういうめが出たかわかりやしない。

エドリエーナ ねえ、どうなのさ、お帰りになるの、ならないの。妻を喜ばせようといへんお骨折りのようだけど。

ドロミオ兄 でもねえおかみさん、だんなさまはどうも頭に角が生えてますぜ。

エドリエーナ 頭に角だって、悪党。まるでわたしは――

ドロミオ兄 いえ、寝とられ男に角が生えるという意味じゃないんで。頭に角出して怒ってるっていうことなんで。あたしが食事にお帰りを、って申し上げたら、一千マルクの金はどうした、とおっしゃるんです。「食事の時間ですよ」ってあたしが言うのと、「金だ」ってだんなさまが言う。「どうかお帰りを」ってあたしが言うのと、「金だ、きさまにわたした一千マルクはどこだ」ってだんなさまが言う。「豚肉がこげますよ」ってあたしが言う、「金だ」ってだんなさまが言う。「おかみさんが……」ってあたしが言う、「おかみさんなんかくそくらえだ、おかみさんなんか知るもんか、おかみさんなんかくたばるがいい……」ルシアーナ だって誰が言うの。

ドロミオ兄 だんなさまが言うんで。「家も女房もおかみさんも知るもんか」って。というわけで、口でするはずのお使いの返事を、ありがたいことにこのかたい肩にちようだいしてまいりました。これを要するに、そこをおぶちになったというわけで。

エドリエーナ もう一度行ってひっぱっておいで。

ドロミオ兄 もう一度行ってひっぱたかれるんですかい。後生ですからほかのものをやってみてくださいよ。

エドリエーナ 行けといったら行くんだよ。行かないとその頭に十分お礼するよ。

ドロミオ兄 そしてだんなさまにじかにお礼をされりやあ、十とじかどでありがたや十字架頭ができあがる。

エドリエーナ へらず口たたくんじゃないよ、百姓。ひねくれてないでさっさとつれてくるんだよ。

ドロミオ兄 あたしはそんなにすねてますかね。あなたのすねのほうがいいへんなしろものだ。なにしろそのすねであたしをフットボールのようにくつとばすんだから。あなたがあつちへボンとふつとばす。だんなさまがこつちへボンとふつとばす。あたしやそのうちフットボールのボンコツにならうってわけだ。

ルシアーナ まあ、そんなにいらいらしてお顔を曇らせて。

〔退場〕

エドリエーナ あの人は好きな女のところへ晴れやかに喜ばせているんだらう。わたしは家であかるい眼差を待ちくたびれているのに。年をとつてわたしの容色もだいいぶくたびれ、あわれな頬から男心をそそる美しさも失われたのだらうか。とすれば、失われたのはあの人じやないの。わたしの話はつまらなく、日照りでかんばんつにであつたように実のあることが言えないのだらうか。とすれば、才気煥発な話が得意なのは、大理石よりかたい無情な心のためじやないの。あの人のか心をむしようにとらえるのは、女たちのにぎにぎしい衣裳だらうか。とすれば、わたしが悪いんじゃない、あの人のがわたしの衣裳代にぎつてあるんだもの。わたしがだめになつたとしても、あの人のがだめにしなかつたものがあるだらうか。とすれば、わたしがだめなのはあの人のためじやないの。わたしの朽ちはてた美しさも、あの人のがやさしい口をきいてくれればとりもどせるだらう。それなのにあの方は、しかつてもきかない鹿のように、柵を破つて外の草をたべに行く。かくして

わたしの身の上は、あの方の浮気のかくれみの。

ルシアーナ それはわが身を傷つける嫉妬というもの。おすてなさいよ、そんなひどいお気持は。

エドリエーナ こんなひどいめにあつてがまんできるのは情のわからぬばかりのだけよ。あの方のばかに熱っぽい眼は別のほうにむいているでなければべつにここを出ていく理由はない。ねえルシアーナ、あの方はわたしに首飾りをくると約束したわね。わたしをみくびつて、あの愛のしるしをほかの女にやるようなことだけはほんとうにしないでほしい。愛する妻のベッドを不当にもきれいさつぱり忘れたのでなければ。どんなにきれいに象嵌された宝石の飾りも、使われるうちにその美しさは台なしになる。その台になつてゐる金は、人の手がふれようと金のまま、いくらふれても金の美しさを禁じることではない。人間もまた表面は虚偽と腐敗におかされようと、その真の価値をおもてだつて傷つけることはできない。わたしのおもてにあらわれた美しさがあの方の眼を喜ばせなくなつた以上、涙であらわれた心を抱いて泣きながら死んでいきましよう。

〔兩人退場〕

第二場

シラキユースのアンティフォラス(弟) 登場。

アンティフォラス弟 ドロミオにあずけた金はちゃんとセンター館にあつた。あの用心深い男はおれを探しに出たらしい。だが宿の亭主の言葉によつて計算すると、あいつと最初市場で別れてから、会つて話をする時間がないことになる。あ、来たな。

シラキユースのドロミオ(弟) 登場。

どうした。ふざけた気分は消えたか。なぐられたきやあまた冗談口たいていいんだぜ。セスター館なんて知らんだと。金なんかうけとらんだと。おかみさんが食事に帰るよう呼びによこしただと。おれの家がフイニックス館だと。頭がおかしくなったんじゃないのか、あんなおかしい返事をするなんて。

ドロミオ弟 どんな返事ですって。いつあたしがそんなこと言いました。

アンティフォラス弟 たったいまさ、ここでさ、三十分とたたん前さ。

ドロミオ弟 あたしはセスター館におあずかりした金をとどけてから、あなたに会いませんでしたよ。

アンティフォラス弟 ばか、お前は金などうけとらんと言ったじゃないか。おかみさんがどうの、食事がどうのと言ったじゃないか。それで

おれが腹を立てたことは痛いほどわかったはずだ。

ドロミオ弟 ごきげんうるわしいのは結構ですが、いったい何の冗談です。教えてくださいよ。

アンティフォラス弟 そうか、頭からおれをばかにしようってんだな。

おれが冗談に言ってると思うのか。ようし、それならこれでもくらえ、これでも。

〔ドロミオをなぐる〕

ドロミオ弟 ま、まってくださいよ。ご冗談だと思つたらほんとに不機嫌でらつしやる。きげんが切れるまえにボカリとは契約違反ですよ。

アンティフォラス弟 お前を道化がわりに親しい口をきいてやりやあ、それをいいことにつけあがつておれのなさを仇にしやがる。おれが

まじめなときも勝手にふざけやがる。おてんとさまが照つてるときには、ばかなぶよでもふざけまわるがいが、かげつてきたら穴ん中にひっこんでろい。おれに冗談口ききたきやあおれの顔色を見てからにしろ。さもないとそれがん首をたたきおとしてやる。

ドロミオ弟 がん首をねえ。がんとこなけりや首はぶじだが、頑固になぐられりやとんだ厄日だ。首ひっこめてびくびくびくり亀の首だ。

ところで一体なぜあたしはなぐられますんで。

アンティフォラス弟 わからんのか。

ドロミオ弟 わかつてるのはなぐられることだけで。

アンティフォラス弟 一体どういうわけか言つてやろうか。

ドロミオ弟 ええ、それに全体も。一体とくりやあ全体がつづくはずでしょう。

アンティフォラス弟 一体どういうわけかといえば、おれをばかにしやがつたからだ。全体どういうわけかといえ、おれをもう一度ばかにしやがつたからだ。

ドロミオ弟 一体全体こない、つたい目にあやつなんてぜったいあるわけないや。ま、あなたにお礼を申しましよう。

アンティフォラス弟 おれにお礼とは何のお礼だ。

ドロミオ弟 ただで立派なものをちようだいしましたからね。

アンティフォラス弟 では次の機会に立派なことをしてくれたらただで帰してやる。それでいいことだ。ところでもう食事の時間か。

ドロミオ弟 いいえ、食事とあたしとちがいます。

アンティフォラス弟 またわけのわからんことを。どういうことだ。

ドロミオ弟 やきが入つてないということ。

アンティフォラス弟 ではなまやきか。

ドロミオ弟 なまやきとすればめしあがらないほうがいいでしょう。

アンティフォラス弟 どうして。

ドロミオ弟 あなたはますますなまいきに、あたしはぶたれてなまきずができます。

アンティフォラス弟 いいかげんにしろ。何事にも時があるぞ。

ドロミオ弟 時がないつていいいが、どうもご機嫌ななめだな。

アンティフォラス弟 ないという証拠があるか。

ドロミオ弟 時という爺さんは禿頭だというけれど、あの禿頭ほどピカピカ光る証拠がありますよ。

アンティフォラス弟 聞こうじゃないか。

ドローミオ弟 自然にはげた髪の毛をとりもどす時はないと言います。

アンティフォラス弟 証拠の証文出してだめか。

ドローミオ弟 商魂たくましいから屋が承知してくれたら、ひとさまの失った毛を少々とりもどせましようがね。

アンティフォラス弟 時はなぜ髪の毛をけちけちするんだ。いくらでも生えるものじゃないか。

ドローミオ弟 それはけものにくぐんでやったからです。人間には毛を借しんで知恵をくれるんですよ。

アンティフォラス弟 だが知恵より毛の多い人間もいるぜ。

ドローミオ弟 そういう人でも悪い病気で毛を失う程度の知恵ならもちあわせてるでしょう。

アンティフォラス弟 すると毛深い男は知恵なしの間抜けか。

ドローミオ弟 間抜けならそれだけ毛もぬけますよ。けれど、ぬけぬけと悪遊びして毛がぬけるなら結構なことだ。

アンティフォラス弟 その理由は。

ドローミオ弟 二つありますよ、しっかりと理由が。

アンティフォラス弟 しっかりとれば抜けんだろう。

ドローミオ弟 では間違いないして理由が。

アンティフォラス弟 間違いないでかしたから毛が抜けおちたんだらう。

ドローミオ弟 では確実な理由が。

アンティフォラス弟 言ってみろ。

ドローミオ弟 一つは散髪代がたずかるってことで、もう一つは食事のときにスーブに毛が落ちないってことで。

アンティフォラス弟 だいたいお前は、何事にも時があるっていうことを否定してみせるはずだったらう。

ドローミオ弟 否定してみせましたよ、自然に失った髪の毛をとりもどす時はないってことを。

アンティフォラス弟 だがその理由は理由にならなかったぞ。なぜとりもどす時はないのだ。

ドローミオ弟 では言いなおしましょう。時の頭は禿なり。しかるがゆえに、いくら心はげませど追いつく時なし。

アンティフォラス弟 きつとばけの皮がはげおちるとは思っていたよ。おい、誰か手招きしてろぞ。

エドリエーナ、ルシアーナ登場。

エドリエーナ ええ、ええ、他人みたいに眉をしかめなさいまし。やさしい顔つきはどうせどこかの誰かにやってしまったんでしょ。わたし

はエドリエーナじゃありませんものね。あなたの妻じゃありませんものね。昔はあなたがすんでお誓いになったものだわ、あなたが耳にして音楽と聞えるものはない、眼にして喜びとなるものはない、手にふれてこころよいものはない、舌に味わっておいしいものはない、も

し、わたしの声と姿と愛撫と料理がなかったら、などと。それがどうして、ねえあなた、どうしてこんなふうにあなたご自身を他人扱いな

さるようになったのです。あなたご自身なのです、このわたしは。だってわたしは自分には他人だけれど、あなたとは心も一つ身も一つ、

あなたの魂ともいのちともいうべきものでしょう。おお、どうかあなたご自身をわたしからひきはなさないで。だってわたしからわたしを

残してあなたご自身だけをひきはなそうとするのは、白波嚙む海の中に一滴の水をおとして、それをふえもへりもしないものそのままの形で

ひきはなそうとするようなもの。もしわたしがみだらな女で、あなたに捧げたこの体をほかの男の情欲に汚したとお聞きになったら、あなた

はどんなにか心をお痛めになるでしょう。わたしに唾をはきかけ、足蹴にし、夫の体面をどうしたしてくれるとどなり、わたしの娼婦の顔か

ら汚れた皮を言いきり、わたしの不実な手から結婚指輪を切りとり、永遠の離縁を誓言してその指輪をたたきこわしてしまおうでしょう。そ

うなら、さ、たった今そうなさい。わたしは不義をおかしています。この血には情欲の罪がまじっています。だって二人は一心同体です

の、あなたが不義をすればあなたの肉の毒がわたしにしみこみ、わた

しも娼婦に感染してしまします。だからあなたの正当な妻のベッドとの正しい誓約をまもりなさい。あなたの名誉に傷がつかず、わたしの身も汚されないように。

アンティフォラス弟 このわたしにおっしゃるのですか、奥さん。わたしはあなたを存じあげませんが。エフェサスに来てまだ二時間とたたないのですから、この町のことにはわからないのですが、あなたのお話もまたさっぱりわかりません。いくら頭をしばって考えても、ただ一言も理解しかねます。

ルシアーナ お兄さま、どうしてそんなにお変りになりましたの。姉をこのようにあつかうことなどいままでにあったかしら。姉は食事にお帰りになるようにって、ドロミオをよこしたのですよ。

アンティフォラス弟 ドロミオを。

ドロミオ弟 あたしを。

エドリエーナ お前をさ。そうしたらお前はもどってきて、この人がなぐつとか、なぐりながらおれは家や妻など知らんぞとどなったとか、言つたじゃないか。

アンティフォラス弟 やい、お前はこれのご婦人にそんな話をしたのか。

いったい何をたくらんでいる。

ドロミオ弟 あたしはべつに何も。これのご婦人には会ったこともありませんよ。

アンティフォラス弟 嘘をつけ。これのご婦人のおっしゃるとおりのことを、市場でおれに言つたじゃないか。

ドロミオ弟 あたしはこれのご婦人には口をきいたこともありませんよ。アンティフォラス弟 それならなぜこれのご婦人はおれたちの名前を知つてらっしゃるのだ。インスピレーションだともいうのか。

エドリエーナ ご身分に似合いませんよ、下男ふぜいとぐるになつて、悲しんでいるわたしをばかになさるなんて。あなたがわたしから遠ざかるのはわたしの罪かもしれませんが、その罪をばかになさるのとはまったくみなことです。さあ、このようにあなたの袖にすがります。あ

なたは榆の木、わたしは鶯、強いあなたと夫婦であればこそ、弱いわたしもあなたの強さをわけてもらえる。あなたをわたしから奪うものがあれば、それは、くずの、泥坊の、鶯です、いばらです、横着な苦です。つみとるのを忘れたためにむりやり割りこんできて、あなたの樹液を吸いとり、あなたを枯らせて自分は生きようとするのです。

アンティフォラス弟 (傍白) このおれに話しているんだ、この人は。おれを相手にくどいているんだ。おれはこの人と夢の中で結婚したのか。それともいま眠っている、話を聞いている夢を見ているのか。どんな間違いがもて、われわれの眼や耳がくるってしまふのか。このたしかにふたしかなことをたしかめるまで、言われるままににせものになりすまそう。

ルシアーナ ドロミオ、先に行つて食事の支度をするよう言つてちょうだい。

ドロミオ弟 ああ、ロザリオがあれば、罪人われは十字をきります。ここは妖精の国だ。用心せいよ。いま話している相手は、小鬼や小妖精や魔性のたぐいかもしれん。言うとおりにしないと、この連中はおれたちのいのちを吸いこむか、青黒いあざができるほどつねりたてるかもしれん。

ルシアーナ なぜぶつぶつづいて返事をしないの。ドロミオ、のろい、まなかつむり、なめくじ、うすばか。

ドロミオ弟 だんなさま、あたしはどうやら變つてしまいましたよ。

アンティフォラス弟 ああ、氣が變つたらう、おれもそうなんだ。

ドロミオ弟 いや、氣が變つただけじゃなくて、姿かたちもですよ。

アンティフォラス弟 姿かたちはもとのままだぞ。

ドロミオ弟 いえ、人真似猿になつたらしいんで。

アンティフォラス弟 お前が變るならとんならうばだろうよ。

ドロミオ弟 なるほど、それでこのかたがあたしをいいように乗りまわそうとし、あたしはのんびり道草をくいたくなつたんだ。あたしがとんならうばでなければ、あ、むこうがご存知でこっちは知らんて